

## 開 議

佐々木謙二副議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の会議に議長欠席のため、地方自治法第106条の規定により副議長が議長の職務を行いますので、ご了承をお願いいたします。

本日の会議に欠席の通告議員は、8番鳥谷政一議員、21番鈴木良雄議員の2名であります。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第4号をもって進めます。

### 日程第1 市政一般に関する質問

佐々木謙二副議長 日程第1、市政一般に関する質問をきのうに引き続き行います。

それでは、順次ご指名いたします。

#### 我妻 昇議員の質問

佐々木謙二副議長 順位11番、議席番号1番、我妻昇議員。

(1番我妻昇議員登壇)(拍手)

1番 我妻 昇議員 おはようございます。

傍聴席に身内がいますと非常に複雑な思いがあるんですが、改めて身を引き締めて質問をさせていただきたいと思います。

こうして暖かい日が続きますとまるで春が来たかのような錯覚を起こしますが、まだまだ気温の低い日も続きますし、雪の予報も見え隠れ

しているようでございます。このような季節を三寒四温というのでございましょうか。ようやく夢を語れるようになった長井市とどこか似ているような気もいたします。

この6年の間、負債総額で38億円を減らし、公債費のピークでありました16年度をどうにか乗り切り、62名もの職員を減らすことができたことは、素直に評価することができます。業務の民間委託も一つ一つ実現し、今後ますます加速させていくことは、スリムな行政の姿がはっきりと見えてきたかと思えます。全国トップクラスの改革のまちという意味では、今まで市民の間に広がっていた「不満」というものが「自慢」に変わりつつあるとさえ思えてきます。

合併は避けて通れない、今後も努力していくとの市長の言葉ではありますが、こうして行財政改革が着実に成果を上げていることは、将来必ずや来るであろう合併に大変有利に働くことだろうと期待をしているところでもあります。

昨年12月議会で私が質問いたしました旧西置賜郡役所の運営について、素早い対応で来年度から市内NPO団体に委託していくことも、新しい名称がもうすぐ決まるということとあわせて今後の展開が非常に楽しみなところであります。

さて、最初の質問をさせていただきます。職員の給与制度、勤務体系についてであります。

本定例会に上程されました議案第22号は、いわゆる「わたり」と呼ばれる昇給システムを廃止するため、長井市独自の行政職給料表を用い職員給与に関する条例を改正するというものですが、これはまさに施政方針にもありました行財政改革の総仕上げにふさわしい案件と言えるものであります。

長年、職員の間には職務や職責に応じた給与を望む声があったと聞いておりました。この改正案が可決し現実のものとなるならば、職員一人ひとりが今よりも増して自分の仕事に対する

やる気を持ち、責任を持ち、誇りを持つことができることと思いますし、そしてその結果、市民に質の高いより心のこもったサービスを提供できるものと確信しているところでもあります。

また、新聞紙上で取り上げられたとおり、独自の給料表を用いてのこうした見直しは、県内ではほかに例はなく全国でもまれな事例であることは、長井市の誇りとなることでしょう。

そこで、総務課長にお聞きしたいのですが、そもそもこの給与制度改革に取り組んだのはなぜなのか、プロジェクトを組み1年もの間検討してきたとのことですが、どのような手順を、経過をたどってきたのかをお聞かせ願いたいと存じます。

次に、教育長に質問をしたいと思います。図書館職員の勤務体制についてであります。

現在の図書館の開館時間は午前9時半から午後5時までです。それを、来年度から午前9時から午後7時までにし、開館日数を現在の279日から300日以上にするということですが、これはつまり利用者にとって便利になる、サービスの向上につながるということだと思います。しかしこれを実現するには、職員と臨時職員の勤務体制を無理のないように工夫しなければならないと思います。

そこで質問です。サービスの向上のためどのような工夫をもって勤務体制を確立するのか、また、図書館を利用するに当たり、市民からの要望があったからこのような措置をとったと思われるが、具体的にどのような要望があったのかをお聞かせ願いたいと思います。

次の質問は市長にお尋ねいたします。

こうした他の市町村に先んじて行う大胆な改革や工夫というものは、一言で言いますと「市民のため」にほかならないわけであり、民間委託や職員数の削減などとあわせて考えれば、志木市や太田市に並ぶ、10年後、20年後を見据えた取り組みであると思います。しかし、問題は

まだまだ山積みであり、すべきことは数え切れないほどであります。

私がここで質問したいのは、ほかの施設や業務にも、前の質問にあったようなやり方を波及させていくのかということであります。

その中でも特に私が指摘・質問したいのは、窓口業務です。再三にわたりこのことについては質問してまいりました。しかし、週にたった1時間の窓口延長が、管理職対応から一般職員対応に「善処」したことで何となく一件落着となっているような気がしてなりません。行政パートナー制度や民間委託の方法の確立、まちづくり条例などに関しては、先輩議員が述べられているので私は申し上げませんが、どのような形にせよ、市民は平日だけの窓口で満足しているわけではなく、土日の窓口を望んでいるものと思います。市長の考えをここでお聞かせ願いたいと思います。

次に、観光についての質問であります。

このたびの一般質問では、私を含め5人の議員が観光を取り上げております。一部質問内容が重複しています。 、 、 についての答弁はほとんど必要がないものと思われるので、補足的な答弁にさせていただき、 をお答えくださいますようお願いいたします。

市長はさきの施政方針で、長井市にとって観光は大きなまちづくりの目玉であるとおっしゃいました。私も同感であります。また、観光は民間が主役であり、行政はあくまでサポート役なのだとの答弁もそうあるべきだろうと私も思います。さらに市長は、観光協会の皆様のご努力に感謝し、今後も長井市にとって協会が必要であることに変わりはないとの考えを持っていることもお聞きしました。

しかし、長井市が行財政改革にスリム化を図っている現在、聖域なく観光協会においても改革が必要であり、それはまさに市長の言葉をかりればバージョンアップすることが必要なのだ

ということも、そういう考えもわかりました。また、これからの観光を見据えると、若者や女性を中心に新たな祭りを企画・実践し、長井市の観光やまちづくりに大きな貢献をしている市民の方々と観光協会や商工会議所、あらゆる組織が連携をとり、市民一体となって長井の観光のために総結集しなければならないのだということも見えてきたように思います。

このように申し上げると私の質問する余地がないように思えてきますが、後ほど再質問をさせていただきます。

最後に、施政方針にありました、地場産品を市外に情報発信し、お得意様を獲得していくための事業という、私には聞きなれない表現がありましたので具体的に教えていただきたいと思います。

基本的に市長にお答えをいただきますが、商工観光課長にも随時答えていただきますようお願いを申し上げ、壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

佐々木謙二副議長 目黒栄樹市長。  
目黒栄樹市長 我妻議員のご質問にお答えをしながら、私の考えも若干述べさせていただきますと思います。

まず、改革・前進の今までの足跡を素直に評価をいただき、そして積極的なご提言をいただいておりますことに、感謝を申し上げます。

そこで、この改革は他の分野にも、特に窓口等にも及ぶのではないかとのご指摘であります。私もまさにそのとおりだと思っております。これからのやはり課題は山積していると思っております。そして、今の私の感じではいいですと、窓口あるいは福祉事務所ですね、福祉の分野等につきましてはNPOも相当出てきておりますので、いろんな分野でその皆さんに委託できることが可能なのではないかと。愛知県の高浜市は株式会社をつくっておやりになっておられるようですが、私はやはり長井市としてはNPO

の皆さんに担っていただく方がより現実的なのではないかと。もちろん大道寺議員がご指摘のような、やはりある程度のルールをつくっていかねばいけないと思っておりますが、そういった課題は私は山積していると思っております。

ただ、やはり改革は一つずつやらせていただきたいと。私は、きのうも申し上げましたが、「石橋をたたいて渡る」というのが恩師の評価でありますので、そこは私のやり方、私流のやり方で、まずやはり図書館なんかは、一番アンケートが多かったんですね、もう少し開館時間を夏の間なんか延長してほしいと。それから、休みが多過ぎないかという声があったと私はお聞きしております。私自身も一時期、選挙で志を果たし得ないときには随分図書館に行ったんですが、やはりそういう感じを持ちました。もう少し夏の間なんか長くしてほしいとか、あるいは開館日も、図書整理というのは月に3日も4日もあるのは一体どうしてなのかなという素朴な疑問がありましたので、まずそこから入っていただいて、もしやはりそれがある程度順調にいくならば、いずれやはりNPOの皆さんに担っていただけるようにするのがいいのではないかという思いであります。

窓口に関しましては、市民課長等にもアンケートをとっていただきましたけれども、出雲市のように、出雲市が一番先に土日やったんですね。あそこは結婚式のメッカでありまして、全国から出雲市で結婚式を挙げるというのが多いそうであります。そして、そこでやはり届け出をする等が、ニーズが多かったと、住民の皆さんの声も多かったということで、土日、市役所の近くの民間のデパートで一室を借りておやりになったということだそうであります。

長井市の場合には、今のところ土日必ずやってほしいというのもそんなにアンケートには出てきません。それから、金曜日を月曜日に延長

しましたけれども、例えば今週あたりは三、四人とか、やはりPRが不徹底な面もあると思いますけれども、まだまだそういった意味で、どうしてもこうやってほしいというようなところが少し……、今すぐという、そういうせっぱ詰まったものではないようなところがありまして、図書館よりは次の課題にさせていただいたなどというふうに思っているところであります。

なお申し上げますと、コンピュータの経費もやはりそれはかかります。平成15年11月からアウトソーシングをコンピュータはしているわけですが、年間の時間外業務は150時間以内ということで契約されておりまして、この時間を超えますと数千万円単位の契約変更が必要になるのではないかと。あるいは、入力に伴う業務になりますと、維持管理もかなりレベルを高い方に配慮をせざるを得ないということでもありますので、ことし1年はまず行財政改革を総仕上げすることなものですから、次の18年以降のやはり優先的な課題にさせていただきたいというのが私の思いでありますので、ご理解をいただきたいと思っております。

観光業務等につきましても、我妻議員は的確に問題点をご理解をいただき、そして改革の方向に賛意をいただきましたことに、まず感謝を申し上げます。

そこで、最後の地場産品のお得意様をどのように確保するのかということについてだけお答えをさせていただきたいと思いますが、地場産業振興センターの事業として、地域の食文化、それから地域の美しい風景や風土をさらに再発見して、それを全国に向けて発信したいという事業をやっております。例えば首都圏の学生の皆さん、あるいは山形の学生の皆さんも含みますが、10名ほどによるプロモーションビデオを制作していただきました。やはりよその人から見て長井のよさというのを素直に評価していただけるんですね。そして、首都圏での置賜出身

者の同窓会で長井の食の提案を行わせていただきました。地場産業振興センターの事務局長が回っております。

さらに、雪灯り回廊のときに、ふるさとの食を楽しむツアー等を実施させていただきました。花作大根のおいしい食べ方であるとか、あるいは高橋鯉屋さんの鯉の、何ていうんでしょうか、丸ごと食べられるような、そういったいろんな長井市のおいしい食のツアーなどを実施させていただきましたら、千葉県からは家族でおいでいただいたという方がいらっしゃいます。4人ですね。それから山大的大川健嗣先生は、ご夫婦で雪灯り回廊を見ながら長井市の食、長井市には随分来たけれども長井市の食というのを本格的に味わったのはあれなので、たまに女房孝行だとおっしゃりながらおいでいただいて味わっていただいたり、これはPR次第ではやはり非常に効果があるものなのではないかというふうに思います。

したがって、来年度も国や県の補助をいただきながら、ふるさとまるごとプロデュース長井ファンクラブ創造事業として、本年度の事業内容を一層推進してまいりたいと思っております。ふるさと親善大使というのも各地であります。しかしこうなりますと相当絞られてまいりますし、名のある方というような感じも、ちょっと私はお忙しい方にだけそういうのをあれしても、もっとやはり長井市の市民レベルでのファンをふやしていくと。そういう皆さんとつながっていくと。年に1回か2回は長井市にも来ていただくと。そういうファンクラブのようなものを考えていくというふうに、その方が私は現実的ではないかと思っております。

具体的な内容については、なおご質問があれば商工観光課長から申し上げさせていただきたいと思っております。

残余の質問につきましては、議員のご指名の

とおりに各担当からお話をさせていただきます。  
以上です。

佐々木謙二副議長 大滝昌利教育長。

大滝昌利教育長 我妻議員のご質問にお答えを  
します。

開館時間の延長については、社会教育委員会  
とか図書館協議会等でも以前から話題になって  
いました。また、昨年の9月に図書館の利用者  
に対して実施したアンケート調査、調査対象が  
100人で有効回答数が84件ほどあったんですが、  
その結果によれば75%以上の方々が開館時間の  
拡大を望んでいる状況でした。県内の公立図書  
館の状況を見ても大半が既に午後6時から8時  
まで時間を拡大していて、本市のように午後5  
時閉館としている公立図書館は少数になってい  
る状況です。

開館日数にしても、先ほど市長からもありま  
したが、日数をふやしてほしいという声が多く  
ありましたので、現在休みにしている第3日曜  
日、祝日も開館して、先ほどありましたように  
279日から300日以上の開館日数をしたいと考  
えたところです。

住民のニーズにこたえて開館時間の延長とか  
開館日数の拡大を図るには、正職員4名、定時  
補助職員1名という現在の職員数では無理があ  
りますので、ただ、厳しい財政状況下ですので  
正職員をふやすということはちょっと難しい状  
況です。そういう状況の中で、図書館業務の充  
実を図り住民サービスの向上を目指すためには、  
正職員2名、司書の資格を持つ臨時職員を4名、  
移動図書館の運行とか施設設備のメンテナン  
スのできる臨時職員2名の計8名体制で公立図  
書館の機能を果たしたいというふうに考えたこ  
ろです。

勤務体制については、きのう高橋議員のご質  
問にも若干お答えをしましたがけれども、臨時職  
員は平日は時差出勤、土曜日・日曜日・祝日も  
交代での勤務になりますけれども、週32時間の

勤務ということで勤務ローテーションを組んで  
いきたいというふうに考えているところです。  
以上です。

佐々木謙二副議長 佐藤仁総務課長。

佐藤 仁総務課長 私の方からは、給与制度見  
直しに取り組んだ理由と経過についてというふ  
うなことでお答え申し上げます。

このたびの給与制度の見直しにつきましては、  
平成12年度に策定をいたしました長井市行財政  
改革推進実施計画、これに基づいて実施をして  
きたというものでございます。

最初、平成15年度、実質的にはもう16年2月  
になっていたようなんですが、15年度に給与制  
度全般にわたる見直しを行うというふうなこと  
で、助役を委員長とする10名の職員によるプロ  
ジェクトチーム、これを編成いたしまして、年  
度内に3回ほど検討をさせていただきました。  
その後、16年度に入りまして、一部メンバーの  
変更はございましたが、再度助役を委員長とい  
たしまして、プロジェクトチームメンバーが13  
名、事務局5名体制で検討を重ねてきたという  
ものでございます。このプロジェクトチームに  
おいては、16年度に11回検討会を開催いたしま  
した。このほか事務局会議と作業部会というふ  
うに称しまして、全員ではなかったんですが、  
半分ぐらいのメンバーで複数回検討を重ねてき  
ております。

この間、全職員を対象といたしまして給与制  
度のアンケート調査、これを実施させていただ  
きました。このアンケート調査におきまして、  
現在の給与制度の問題点とされているところ、  
感じているところ、こういったものを職員の方  
々からお聞きをしたと。その中で昇格に係る  
問題点として一番多かったのが、職責の違う複  
数の職が同一の等級となっていること、これが  
問題ではないかというふうなことで、昇格に関  
する事項では一番多かったというものでござい  
ます。

それで、このたびの給与制度プロジェクトにおきましては、この最初の見直し事項といたしまして昇格基準の見直し、これを取り上げた。見直しに当たりましては、地方公務員法に規定する職務給の原則の徹底を図るということが第1点。それから、アンケート調査で一番問題として多かった、職責が違う複数の職が同一の級となっている、これを解消するというふうなことを念頭に置きながら検討を重ねてきたというものでございまして、同時に、職員のやる気や頑張り、これにこたえ得るような制度にすべきであろうということで検討してきたものでございます。

なお、このたびの給与制度の見直しはこれで全部終了したとは思っておりません。17年度以降におきましても、プロジェクトチームを存続させて継続して検討していきたいというふうに考えております。今後、人材育成基本計画であるとか、それから昇任基準・昇格基準の透明化・明確化であるとか、人事評価制度であるとか、そういったこと等について、17年度以降、逐次検討をしていかなければならないというふうに考えているところでございます。

こういった理由、経過をたどってきたというふうなことでご理解を賜りたいと思います。以上でございます。

佐々木謙二副議長 那須宗一商工観光課長。

那須宗一商工観光課長 我妻議員のご質問にお答え申し上げます。

地場産品のお客様をいかにして獲得していくかというふうなことについて具体的な内容というふうなことでございますが、この事業につきましては、地場産業振興センターの事業として平成16年度より、本年度より行ってきたものでございます。

16年度の事業につきましては、先ほど市長からもございましたが、地場産品プロモーション事業というふうな名称をもちまして、首都圏の

学生とか山形の学生10名による地場産品プロデュースビデオの作成とか、このビデオをもちまして関東致芳会、長井高校同窓会での営業活動などを地場産センターの局長が行ってまいりました。

また、雪灯り回廊、2月11日に開催されましたが、この雪灯り回廊とふるさとの食を楽しむツアーなども実施してまいったところでございます。このツアーについては26名の参加を得たところでございます。

平成17年度におきましても、同じように地場産業振興センターが、国、県の補助をいただき、仮称ではございますが、ふるさとまるごとプロデュース長井ファンクラブ創造事業という名称で実施したいというふうに考えているものでございます。

具体的には、市内の事業者、商工会議所、NPO、市などがメンバーとなる企画委員会をまず立ち上げまして、事業内容の検討を行います。あわせまして、地元出身者で広いネットワークを持っておられるサービス業、出版業、旅行業の関係者にコーディネーターを依頼したいというふうに考えているところでございます。

想定しております事業については、この地域の四季やロケーション、食、「食べる」方の食です。食の職人を生かして、おもてなしのプランとファンクラブ創造の仕掛けを演出して実践していきたいというものでございます。詳細な内容につきましては、企画委員会、コーディネーターとの検討の中で詰めていきたいというふうに考えているところでございます。

なお、事業の骨格といたしましては、首都圏学生等による地場産品プロモーション映像の作成、2番目といたしまして、物産や食の体験、まちなみ観光や首都圏児童のふるさと体験ツアーなどの誘客、おもてなしプランの検討・実施、3番目といたしまして、事業参加者などの開拓を通してリピーターを獲得すると。そのための

首都圏交流事業等の開催をしないと。4番目として、大学生との継続的な連携を考えているところでございます。以上でございます。

佐々木謙二副議長 1番、我妻昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

私がこの1番を質問した理由は、2番の質問をしたいからしたような感じがあるんですが、ちょっとお聞きをしたいのは、の12人のプロジェクトを組んだということですが、今までにないような取り組みだったと聞いております。というのは、例えば職員組合の方も交えてのプロジェクトチームだったとお聞きしておりますが、そこはちょっと触れられていなかったようですが、総務課長いかがでしょうか。

佐々木謙二副議長 佐藤仁総務課長。

佐藤 仁総務課長 13名の中には確かに職員労働組合の方からも2名の方に参画をいただいております。

佐々木謙二副議長 1番、我妻昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

ということは、これからどんな案件についてもこういうやり方というのはできるのではないかなと思ったわけで窓口を取り上げたんです。一見、市長が言うように数千万もコンピュータ代がかかるだとか、アンケートの結果に窓口延長を希望する結果がなかったですとか、そういうことはあるでしょう。でも、何ていいですか、取り組みもしないで実際わからないであろうと私は思いますよ。

例えばアンケートの結果を見ますと、結局点数つけなんですよ。窓口はどうでしたかと、1から5までの評価をいただいて、これ平均点数でいうと3.94ぐらいでかなりいい方なのでしょうか、だと思えます。そのほかにご意見ありませんかというような聞き方でした。私はこれでは意見なんて出ないと思えます。

例えば、「平日だけの窓口で不便さを感じませんか」というようなことを何で入れてくれない

んでしょうか。私なり蒲生光男議員があれだけ毎年毎年というか今まで再三にわたり質問してきたにもかかわらず、せっかく窓口のアンケートをとるわけですからそういう項目を入れてほしいと思うわけなんです、全然そんなことはないし。ということは、考えていないということでしょうけれども。もし土曜・日曜日に窓口が利用できるとすれば、あなたは利用しますかと。積極的に利用するだとか、別に必要がないだとか。あと、その項目の中に、その場合は経費がこれだけかかりますがその点についてどう思いますかと。そんな経費がかかるんだったらやらなくてもいいだろうというような答えも来るだろうし、そういうことを聞くべきであって、点数、1から5段階評価を聞いて、ほかに意見ありませんかなどというアンケートは、悪いことではないかと思いますが、発展性に乏しいのではないかと私は思っております。

あと、予算が数千万かかると市長はおっしゃいますが、実際聞いたんでしょうか。数年前というか、もうパソコンの価格だって40万が10万になったり、人件費が減ったり、あと人、5人ですところが2人で済んだり、いろんな時代がどんどん変わっている昨今、数千万かかる、土日にコンピュータを動かすだけで。それは、予想はされるかと思いますが、本当に突き詰めてIBMさんと話をすればそんなことはないだろうと思われそうですが、市長いかがでしょうか。

佐々木謙二副議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 ご指摘のように、やはりアンケートについても土日に絞ってというようなあれではないですね。ですから、それはもう一度ご指摘のようなご質問項目を入れて、ぜひご指摘をいただきながら突き合わせて、この辺でどうだというようなところでもう一度アンケートをとらせていただきたいと思います。我妻議員のご質問のあれをちゃんと入れてですね。

それから、コンピュータにつきましては市民

課長から申し上げます。

佐々木謙二副議長 小泉良一市民課長。

小泉良一市民課長 お答えをさせていただきたいと思います。

数千万というふうなことのお答えを市長からしていただきましたが、金曜日から土曜日に移る段階で庁内で検討会をした経過がございます。その際に、時間の延長というふうなことでコンピュータを動かしていくというふうな中身で、どれほどの費用負担が増加になるかということとを企画調整課の情報管理係の方に聞いたことがございました。明確に資料をもって幾ら増加するというふうなことではございませんでしたが、数千万単位でふえていくというふうな、アウトソーシングの契約が変わっていくためにふえていくというふうなお話を聞きましたものでお答えをさせていただきました。以上でございます。

佐々木謙二副議長 1番、我妻昇議員。

1番 我妻 昇議員 それは業者さんは、私も業者の立場だったら、仕事がふえればこのくらいかかりますよと答えますよ。

そうでなくて、突き詰めて話をしてないでしょうということですから、本腰を入れてといたしますか、来年しろなんていうことは難しいかもしれませんが、それは。順番があると。順次していくんだと。ほかにも問題が山積みなんだと。それはわかりますので、なかなかすぐには難しいかとは思いますが、腰を入れてといたしますか、もう少し取り組んでほしいわけです。職員組合とプロジェクトチームを組んだとか、図書館をこうやって、いわゆるフレックスタイムですね、時間差出勤をしたり、日曜出勤、振替休日をもってこうやって努力してらっしゃるじゃないですか。これを何で窓口ができないかと。応用してみようかという発想にならないのでしょうか。IBMさんと心底話をすれば、いやこういうやり方も実はあるのですというようなことも出てくるのではないかと考えているわけですので、

当たり前の会話でうのみにというんですか、「ああそうですか」ということではなくして、今回のこの取り組みに倣って取り組んでいただけるように市長からももう1回お願いいたします。

佐々木謙二副議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 ご指摘のとおりだと思います。もっとやはり詰めて、あるいは全国で土日やっていたらいいところがあると思いますね。そういう皆さんではどうなっているのかというようなことも詰めながら。それから、やはり担当のIBMともきちっと詰めて。例えば土日やったらどれぐらいになるのかと、土曜日だけではどうなのかというようなところをちゃんとご説明ができるように、それもぎりぎりやり合っていますね、何ていうんですか、相手の言いなりでない、そういったあれが必要だろうと思います。

それから、プロジェクトチーム、給与制度のときにもこういった部門は余り対立ばかりしていただろうがないわけですから、これはやはり労働組合の皆さんとも、これは市民のためになるんだよと、だからやはりこれは協力してほしいというようなことをご理解をいただいた上でやはり参画していただくというようなことをやはりもっと詰めて、あるいは深く検討するというふうにしていきたいと思います。

佐々木謙二副議長 1番、我妻昇議員。

1番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

村山市でしたか東根市でしたか、土曜日の窓口に関して予約制をとっていましたね、ついこの間まで。それを、今度は予約なくしていつでもどうぞということまで広げているわけですね。縮小していませんよ。使う人が少ないからだというような、以前質問したときに利用者が余りいないようですというような答弁もあったと思いますが、そうでなくて、もっと便利にすればふえるのではないかという発想からだと思いますが、いろんな工夫をしてらっしゃる市がある



んだということですので、ぜひ長井でもお願いしたいと思いますし、また、図書館のやり方、給与制度のやり方に関しては本当に深く敬意を表し、今後も努力をしていただきたいと思います。

観光のことを、時間を割きたいものですから次に移りたいと思いますが、例えば市長の考えをお聞きしたいんですが、この市長の考え、改革なり、事務局を少し効率的にしたり連携をとるといったようなお話を、観光協会の三役はどうも賛同できないというようなことでしょうか。新聞等にも取り上げられておりますけれども、どうも辞職する向きがあると。三役なり、あとは50人の理事ですね、辞職する向きがあると。3月14日にそれが出るわけですが、もしも三役が辞職、理事も総辞職となった場合は、620人の会員なり事務局体制なりというのは具体的にどうなるとお考えですか。市長。

佐々木謙二副議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 私は、例えば経理を公開で明朗にさせていただくよというの、数年前から申し上げてまいりました。しかし、なかなか今までこうやっているんだとか、余りあれかれと口出ししないでくれとか、自分のところは自分に任せると、こういうのでなかなか進まなかったというところはあると思います。そして、そのことが理事会等に伝わっていなかったということが、やはりこの理事の皆さんが「何だ、唐突に」とこういう話になったと思います。

お聞きしますと、三役会議というのは相当持たれていて、10回近く持たれているようですが、私が申し上げたところは、なかなかやはり三役会では検討なさいますが、理事会の平場では検討なされなかったというようなことがどうもお聞きできましたので、この間私は2月10日、わざわざ自分でとにかく行って、私の口からこういう思いなのだ、こういう方法なのだということを、参加させてほしいと申し上げ

て、2月10日には相当時間を割かせていただきました。

そのときに余り理事会の皆さんには諮られていないのだなということも後でお聞きしまして、そういった意味で、三役の皆さんがどういうご判断をなさったかは別であります、三役の皆さんからいうと、固まらないうちには言えないのだとか、細かいところでやりとりしているときにというようなお話でしたけれども、率直にやはり今はバージョンアップをするためには聖域なく見直していった方がいいのではないかなというふうに思います。

いろんな想定をしております。ライブドアの堀江社長の「想定内」というのは今のはやりのようであります、それはしかし、まずやはり市民の皆さんのためにお祭り、今まで観光協会が主として担っていただいたつつじ、あやめ、水まつりについては、やはり民間総結集でやっていただけるようなことはそれはもういろんな想定の中では考えておりますが、私はやはり、観光協会の皆さんがやはりリニューアルをされて、解散とか、穏やかな話じゃないわけですから、全員辞表とかそういう話でもないわけですから、ご理解をいただける部分はあると思います。もし一部役員の方に、さらに若い皆さんとか女性の皆さんとか、あるいは総結集できるような各団体の皆さんとかというように入っていたら、私はそれが一番穏やかな改革ということになるのではないかと考えております。

佐々木謙二副議長 1番、我妻昇議員。

1番 我妻 昇議員 ということは、解散なり三役が辞任なりというのは穏やかな話ではないわけですが、もしもそうなった場合にも、観光協会、620人の会員の観光協会は存続し、どういう形になるのか、それは想定をいろいろなさっているということですのでどういう形になるのかは別にしても、お祭りをし、黒獅子まつりも

花火大会も、さまざまなお祭りをしていくのだと。

ただ、その620人の会員というのは50名の理事の方がほとんど足で稼いだといえますか、足で獲得した会員だと思われま。やはり「理事がやめるんだったら、もうおれらもいいべや」というような感覚がどうしてもあるのではないかなと思うんですが、4月、新年度から早速会員には5,000円なり3,000円なり、特別会員1万円でしたか、の会費を徴収しに回らなくてはいけないかと思ひます。そういう具体的なことというのはどうお考えかなと。会員は別にもうどんどんなくなってもいいし、もう100人でも200人でもいれればいいやと、そういうふうにしてらっしゃるのか、いや、それは620人いらっしゃるんだからそれは説得して回り、残った方々とまた新たな賛同者を得てその会員は守っていくのだと思ひてらっしゃるのか、その辺をもう少し具体的に教えていただけますか。

佐々木謙二副議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 この間の経緯について、会員の方にもやはりそれは説明不足であったというふうに私も、私自身のやはり努力も至らなかったというふうに思ひております。それから、三役の皆さんを初めリーダーの皆さんも、会員の皆さんにご説明なさるところが、理事会でさえ少なかったわけでありま。やはり非常に混乱を与えていると。あるいは新聞等で知って初めてだというふうなお電話もございませ。

しかし、私はやはりそういう皆さんにぜひ観光協会をしっかりとまた、何ていうんですか、バージョンアップして、そして長井市の観光を民間総結集でいきたいのだというふうにお話をしますと、ご理解をいただける向きもありませ。民間の皆さんでも相当、あるいは若い皆さんなんかでもその方がいいよと、それだたらおれたちも協力するよという声もいらっしゃいませ。まず当面620名の会員の皆さんにはご説明を

しながら、会員はなるべくやはり会員として残っていただけるような努力をしていかなければいけない。これはこの1年間かけてであります。やはりやっていかなければいけないというふうに思ひております。

佐々木謙二副議長 1番、我妻昇議員。

1番 我妻 昇議員 残った方は大変になるかもしれませんが、私も実は理事でありまして、私もやめたくはないです。こんなことで辞職だとか総辞職だとかです。そういうことは嫌で、3月14日にも私なりの意見を述べていきたいなと思ひますが、それはどうなるのか、想定内のことで済むのか、想定外のことが起こるのかはちょっと私にもわかりませんが、それなりの努力はさせていただくつもりであります。

また、観光協会がどうもおかしくなるというか、役員がない、会長がないというときに、県の協会、県の観光協会、置賜の観光協会というんですか、お金を出し合ったりしてやっていると思ひます。そこののかかわりというんですかね、そこら辺の説明なりかかわり。桜回廊ももう始まりませ。広告の方は始まりませ。そういうことはどうなるんでしょうか。一昨日の市長の答弁に、桜回廊は置賜全体でやっているから長井市は余りかかわっていないんだという趣旨の発言がありましたけれども、あれは例えば各置賜の協会、例えば南陽でいうと、南陽の協会はお金も出すし、総合窓口として事務分担も、要するにお金の分担も事務分担もしている。白鷹は企画・広報の事務分担もお金も分担もしている。長井は総務と会計の事務分担で同額のお金の分担もしているんだということでありませ。桜回廊にはちゃんとかかわっておりますよ。

そういう広域的な観光の連携に差し支えがあるかと思ひますが、市長はその辺、もしも会長、三役が辞任した場合のことについて、すみませ、何回もくどういようですが、他市町には

どのような説明なり、ことを考えていらっしゃるでしょうか。

佐々木謙二副議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 今の状況でいうと、3月14日に理事会をなさいますね。理事会の場で、新聞等でもこの間お会いしたときにも、全部市に返すから、我々は辞任するから解散したらどうだというようなご提案もありましたから、いやそういったことも……、それはそういうふうにならないようにしていただきたいけれども、いろんな想定ありますよ。

ただしその3月14日の理事会でも、総会まではちゃんと理事の任期はあるわけですよ。4月14日ですか、4月の何日までは今の体制でやはりやっていただいて、その総会で、できれば存続であります。そうでない場合というようなことがあれば、またやはり新たな協会を立ち上げて。もう定款はもう十分、あれで十分だと思いますからね。役員を選んでいただいてやれば、そこはつながっていくのではないかと。4月14日までにはちゃんとやっていただけるのではないかと。辞意を表明されている方についても、そこまではちゃんと責任を果たしていただけるのではないかとというふうに私は思っておりますし、そこで新たなバージョンアップした民間総結集になればそれはつながっていくというふうに私は思っております。

佐々木謙二副議長 1番、我妻昇議員。

1番 我妻 昇議員 私も会員であり理事であり、あと私のほかにも議員では3人いらっしゃいます。という意味では、3月末日までというか16年度の責任はあるわけですからそこはちゃんと私も果たしていきたいと思っておりますので、市長もできる限りの努力をなさって、まだ交渉の余地といいましょうか、まだいい展開に、最善の方法になる余地はまだまだあると思っておりますので、最悪のことにならないように。最悪というのは、もう会員、理事が憤慨して、長井市の観

光事業にはもう一切手をかさないなんていう最悪の事態にならないようなことだけ私は祈りたいと思います。

ちょっと発展的なといいますか、もう一つ、協会もやはり悪かったと思います。三役のやり方、理事に諮らなかったというやり方もそうですが、例えば協会というのは大分年齢も高くなっているようで、「スウィングガールズ」でせっかく盛り上がっている今、長井線を存続させようとか、長井市を盛り上げよう、ひいては置賜全体をこのせっかくの映画で盛り上げようというような動きに対して、はっきり言って協会は腰が重かったと思います。動けなかったといいますか。やはりそういう協会であってはいけませんし、また、長井市の冬というのはもちろん暗くて、しいんと静まり返っている冬に少しでも明かりを灯そうという動き、雪灯り回廊に対しても、ほとんどといっていいほど協会はバックアップなんかできなかったということなんかを考えれば、やはり悪いところはあるかと思えますよ。

ただ、長井市なり商工会議所だって同じことが言えて、例えばあやめ公園の開園式、私何年も行っていましたが、ここにいる皆様方いらっしゃったのでしょうか。何人いらっしゃったか。例えば商工会議所の職員なんて全然来ませんよ、副会長だったか代理でいらっしゃいましたけれども。長井を代表する花であるあやめの公園の開園式にみんなが結集してですね、市長がおっしゃる市民総結集ですよ、をして今停滞しているこの観光をどうするかと顔を合わせるのが当たり前という中で、あんな、あんなというか、寂しい開園式であるし、あやめ公園は今もって停滞している現状を見ると、やはり協会だけが悪いわけではなく、市もそうですし、私も含めてやはり反省すべき点があったのではないかなと思っておりますので、市長もそこら辺を踏まえて取り組んでいただきたいと思えます。

なり今後の観光のことをちょっとしゃべりたいんですが、例えば全国大会、東北大会、山形大会なんて企画している事業主といますか、組合。例えば旅館組合だ、麵組合だとか、喫茶組合も含めて、床屋だとか美容だとかいろんな組合があります。またスポーツの団体もあるでしょう。そういう団体に積極的に山形大会を長井で開いてくれと。東北大会を誘致しよう、全国大会を誘致しよう、そういうことを市でも支援するからどうだというようなことを、観光につながるわけですから、そういうことを含めて今後コーディネートするといいますか、企画するようなことが必要だろうと思います。

ぜひ、観光協会の今の事務局長、今野事務局長には、最後までといいますか、未永く観光には携わってもらって、そういう企画ですとか他団体との、いろんな団体があります、との連携ですとか、そういうことを図っていくべきだと思われませんが、ちょっとその辺に関して市長のお考えを。

佐々木謙二副議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 老人クラブ連合会がことし長井で県大会を開きたいというお話がありますので、それはそれで、そういった話は私は全部受けると。なるべくやはりこちら、市も協力しろということで、この間県の方もおいでになっていただきました。あるいはけん玉の全国大会等もやりたいというようなお話もありますから、これもやはりなるべく受けると。そして、やはりしっかりと長井のよさを全国の人にも、あるいは県内の人にもわかっていただけるようなしっかりしたおもてなしができるようにしろというふうに、私は率先してこれからもやっていきたいと思えます。

やはり観光協会は、「スウィングガールズ」もそうですし雪灯り回廊もそうですし、あるいはこれからできるフットパスもそうですし、NPOの皆さんとの連携もそうですし、そういった

ことがちゃんとやはりできるような、そういう活動もやっていただけると、我々も一生懸命サポートをしていくということでよくなるのではないかなというふうに思っております。

佐々木謙二副議長 1番、我妻昇議員。

1番 我妻 昇議員 けん玉の話が出ました。私もそれを言おうと思っていまして、けん玉の全国協会というんでしょうかね、30周年記念を長井で開きたいということで今騒いでらっしゃると思いますが、まだ具体的には全然決まっていないそうです。ぜひそこは、全国大会もする、30周年の記念事業もするということですから、市としてもバックアップ、全面的に協力するというような姿勢を出さないと、いつまでも記念事業も決まらない、大会も決まらないなんていうと、ほかのところでもやろうかなんていう判断もないこともないわけですから、そこは早く対応をしていただきたいと思えます。将棋大会ももちろんいいわけですが、長井はやはりけん玉ですので、けん玉大会、全国大会、ことししたいと言っているわけですから、それをどうか成功させていただきたいと思えます。

また、最後にCMのことなんですけれども、CM大賞を私も取り組みましていろんな……、そういうはめになってしまったんですが、市からいただいたのは930円のビデオテープだけだったんです。930円のビデオテープで30秒……、30秒といっても大体6カ月かかりました、あれを撮るのに。もういろんなさまざまなことをやりまして、はっきり言って余りいい作品だとはいえなかったわけですが、少しばかりの何か支援していただけないか。

また私がやるわけじゃないですよ。たまたま私の企画が通っただけで、いろいろやりたいという人がいらっしゃるわけですから、若い人たち。その企画に対して協力をしていただきたいと思えますし、もう一つ最後に、時間がありませんので聞きたいのは、市主催というか、商工

観光課主催の観光懇談会というのを去年とことしとやったようですが、2回ほどやったと思いますけれども、どうも中途半端でないかというふうな批判が来ているようです。私もいろいろ聞きますと、本当に中途半端な会になっているような、私も入っていませんけれども、気がいたします。

このままその観光懇談会を続けていくのか、また、観光協会は大幅な改革、事務局改革をしたわけですが、観光係3名の体制はこのままで推移していくのか、ひとつ市長、そこら辺お答え願います。

佐々木謙二副議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 CM大賞等については、ご要望の趣旨をよく理解して、積極的に取り組まさせていただきます。

懇談会等につきましても、いろいろ工夫しなければいけないというふうに思っておりますし、市の体制もしっかりと強化するという方向で考えていきたいと思えます。

### 内谷重治議員の質問

佐々木謙二副議長 次に、順位12番、議席番号2番、内谷重治議員。

(2番内谷重治議員登壇)(拍手)

2番 内谷重治議員 今3月定例会では、会派代表質問も含め12名が質問に立ちました。目黒市長の6年目、財政再建5カ年計画の仕上げの年に当たる平成17年度の施政方針に対する質問を中心に大変な激論が交わされた議会だったというふうに思います。

主な論点としましては、行財政改革や協働のまちづくりの推進施策について、また、市町村合併についてや今後の合併についてのスタンス、観光行政のあり方等々であったというふうに思

いますが、とりわけ私の所属いたしますフォーラム21では、今定例会についても会派全員が質問に立ちまして、財政再建5カ年計画後の長井市の自立計画を中心に提言し、一定の成果を上げてきたものというふうに思います。

私が最後ということで、私の通告しておりますすべての項目で質問が重複し、ほぼ議論は尽くされたと思いますが、幾つかの点でさらに若干の議論を深めていきたいと考えておりますので、当局におかれましては明確かつ真摯なご答弁をお願いするものであります。

さて、私の通告しております平成18年度からの自立計画策定に向けて、「行政・市民・企業一体の活力再生を」についてであります。この場合の行政は市役所を指してありまして、市民については市民公益活動、すなわち協働のまちづくりを、企業とは商業、農業などの個人事業者を含めた民間企業の産業全般を指しております。

今、なぜ自立計画の必要性を我々会派は繰り返し繰り返し申し上げているのか。会派代表の蒲生光男議員も触れられましたが、市町村合併をしないから自立計画を立てなければならないと、そういった狭義の意味での自立計画策定であってはならないというふうに思います。我が長井市にとっては、ポスト財政再建5カ年計画でありますし、何よりも、今国が進めようとしている、明治維新以降確立してきた日本という国のかたち、中央集権国家から、地方分権を認めた緩やかな中央集権・地方連邦国家的なものに対応できる地方自治体づくりなのだと私は考えております。

今定例会での鈴木武次議員の質問で目黒市長が、将来的には西置賜の市町村が一つになり、やがて米沢東南置賜を含めた置賜の市町が合併することが望ましいと答弁されましたように、道州制を見据えた新しい国のかたちにこの置賜地域のアイデンティティーを維持するためには、